幻

會長　下村壽一

嘗て詩人は「人生には幻がなければならぬ。幻は希望となり、希望はやがて實現せられる」と歌つた。吾等の父祖が嘗て夢みたであらう幻、懷いたであらう希望が、今や東亞の大陸に仁愛正義の新天地を肇造しやうとして、著々として實行の途上にあることは眼前の出來事であり、幻の現實化を如實に示すものと言へる。

子供の王國は幻の世界である。まことに子供の時代ほど幻の旺盛な時期はない。彼等の瞼の中に變幻出沒する幻こそ、彼等の創造する未來の生活設計でもあり見取圖でもある。之を唯其の場限りの儚なきものとして徒に雲烟過眼視するのは甚當らぬことである。

今の北海道帝國大學の前身札幌農學校初期の教師クラーク氏が、其の教へ子達に對する訣別の言葉として「諸子よ大望を持て」(Boys, be ambitious)の名句を餞けたことは有名な話であり、此の言葉に感奮興起して國家有用の材になつた人が多いのは人のよく知るところである。併し私はそれ等の人々がまだ學校にも上らぬ幼少の時代に夢みて居つた幻が、クラーク先生の恩愛を籠めた最後の教訓に依つて再生され具體化されて、かゝる美はしい結果を齎したものと考へる。立志と言ひ發奮と言ふも、其の萌しは畢竟泡沫にも似たる子供達の幻の中に胎藏されて潛在するものなることを見忘れてはならぬ。